

学校通信

4

2024 APR.

第251号

学校生活における大切なお知らせです

学校長からのメッセージ

ご入学おめでとうございます。この春卒業した生徒が語ってくれた言葉です。

「中学の時、不登校になった。自分は『当たり前』にこだわる性格だった。そんな僕が、同級生たちが当たり前になっている“通学”が出来なくなった。『何でこんなことも出来ないんだ』と自分を責めて、自分の存在意義を見失うくらいネガティブになった。でも YMCA に入って、先生から過去の失敗経験を聞くうちに、『人は出来ないことがあるのが普通』で、『人生は失敗の繰り返し』だと知った。先生に悩みを相談するようになり、失敗しても深く悩まず、気が楽になるような考え方を得た。このように失敗と成功を繰り返しながら色々な挑戦をして、自分が大きく変わることが出来た」

オリエンテーションで伝えたこと《入学から卒業に至る生徒との関わり》

◆不安・緊張から「安心」へ

入学時は不安や緊張でいっぱい。本校は、教員と生徒との関係が近く、相談しやすいです。また、全日制と違い、しんどい時は「昼から通学」ができ、元気になってから「通学日数を増やす」こともできます。本人のペースに合わせて通えるので、大きな安心につながります。

◆自分の「居場所」が見つかる

コース制では、友達同士をつなぐ「クラスワーク」があり、スタンダードコースでは「わいわいカフェ」などに参加することで自分の居場所を見つけることが出来ます。もちろん1人でも人目を気にせず過ごせます。校則や制服はないので、それが窮屈だった人も自由の楽しさを感じるでしょう。やがて友達とLINEなど交換がはじまるとトラブルも起こります。ですが私たちは失敗もトラブルも大人になる過程の大切な経験と捉えてフォローします。

◆「自分らしさ」から「自己肯定感」、そして自立・自律へ

自由は自分で考え、自分で決めて行くことです。生きるために必要な力を育みます。学校内の活動も、「する・しない」は自分で決めます。校外においても、例えばアルバイトをする、勉強をする、何もしない、などもそうです。これまで人目を気にしながら行動してきた人も、これからは、人と違っていい、自分らしいと思えるよう応援します。そのことは、自分と違う人を認める事に通じ、お互いを認め合う大切な事だからです。

このようにして自分らしく過ごす中で、自分に自信がもてるようになると、学習でも人間関係でも積極的になり、やがて自分のやりたいことを見つけ、そこへ向かって行けます。生徒たちが本校を卒業する頃は成人。卒業後は自力で歩めるよう、家庭と連携しながら一緒に見守りたく思います。

(校長 鍛治田 千文)

「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。
わたしがあなたがたを休ませてあげます。」(マタイによる福音書 11章 28節)





今月の聖句

「あなたがたの中でいちばん偉い人は、いちばん若い者のようになり、上に立つ人は、仕える者のようになりなさい。」

(ルカによる福音書 22 章 26 節)

4 月になり、新年度が始まりました。新しい一年を歩み出す時、私たちはしばしばその年の目標などを考えることがあります。将来の自分の姿をいろいろと想像して思い描いたりもします。その姿は皆さんにとって、どんなものでしょうか。きっと誰もが、今よりもグレードアップした自分を夢見るのではないのでしょうか。今よりも強く、賢く、大きくなっていくことが良いことだと言われる社会です。ですから、皆その社会の中で自分をグレードアップさせようと一生懸命になるのです。そして、思った通りに自分がグレードアップできれば良い結果として認められ、そうでなければダメな結果と言われてしまいます。でも本当にそうなのではないのでしょうか。人より強い力を持ち、人より賢い生き方ができて、人より高い場所から社会を見下ろすことを本当に望みますか？むしろ、自分の弱さを知り、自分の愚かさを知り、自分の小ささを知って、そんな自分でも必要とされて生かされていることを感謝して歩むほうが、本当の愛に近い気がするのです。

(日本基督教団 河内長野みぎわ教会 福島義也牧師)

